

インフラマネージャーの 必要性を世に問う!

部会長 **中川 均**
なかがわひとし



インフラとは何か! (インフラの定義)

東大名誉教授宇沢弘文氏著作『社会的共通資本』(岩波新書)では「社会的共通資本は、一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力のある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置を意味する」と定義され、大きく3つのものに分類されている。まず自然環境(大気・森林・河川・水・土壌など)が当たり前のように存在し、それらの恩恵を受けて、次に道路・交通機関・上下水道・電力・ガスなどのエネルギーを含む社会的インフラストラクチャー(これをインフラと定義)が国民生活に便益を供与し、さらにその仕組みが公平に機能するための制度資本があります。農村、漁村、山村、都市という人々が安心して安全に暮らす地域共同体は、この3つの共通資本で支えられている。

インフラマネージャーがなぜ必要なのか?

インフラマネージャーの役割を定義する際に重要な観点は、大きな2つのサイクルの存在である。まずインフラを長期に計画して維持管理するマネジメントサイクル、このサイクルは、従来は国、地方自治体などの管理者が担当し、インフラの計画・改善・評価・実行というインフラの廃棄や更新を含むものである。一方、日常的に民間事業者などによって行われるメンテナンスサイクルがあり、これは市民や企業がインフラから日常的に安全・安心なサービスが得られることを担保する、点検・診断・措置・記録という日々のサイクルである。

これらマネジメントサイクルとメンテナンスサイクルとが、定期点検というフェーズでピッタリと一致して初めてインフラの健全な維持管理が実施可能となる。そのために立場は違うが同レベルの能力を持ったインフラマネージャーが双方に必要となることを図表で示している。

FMとインフラの関係

FMとインフラとはどのような関係なのかを定義してみると「インフラはすべての社会活動を支える基盤であり、ファシリティで組織活動を継続するためには、インフラは不可欠」と言える。すなわち「街」が人々の活動する空間であるためにはインフラとファシリティとは一体的に運用されないといけないということである。それではなぜ、いまJFMAがインフラマネジメントに取り組む必要があるのか? そのキーワードは「経営的視点」だと考えられる。ファシリティとインフラが一体となって地域住民へ行政サービス(インフラサービス)を提供し、組織活動を向上させるという好循環を実現するというマネジメントの視点は、JFMAが設立されて以来のミッションではないか、と考える。

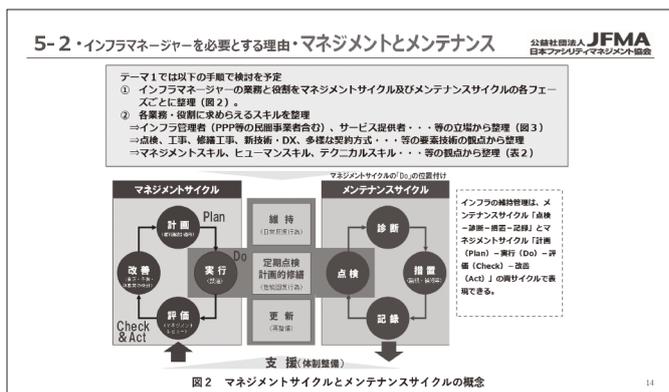
今後の取り組み

①人材の育成と普及(認定ファシリティマネージャー資格へ!)

認定ファシリティマネージャーの資格とインフラマネージャーとの関連付けを別個の資格とするのではなく、現行の資格制度のインフラ部門として整理できないかを研究をしていく予定である。災害多発の現下の日本においては災害を想定したファシリティの計画にはインフラに関する知識は不可欠なものである。

②国交省インフラメンテナンス国民会議との連携強化

JFMA活動を通し、「インフラマネージャー」の認知度を高め、将来を担える若者たちにとって魅力のある、夢のある職業で、そして誇れる職業と感じてもらえる活動を目指す。そのために国民会議活動への参加を通じて、インフラテクコンの継続的な開催、自治体などへの出前講座、国土交通大学校での講座開設、群マネの基礎自治体への普及促進への協力、これらを方針に継続的な活動を展開する。◀



図表 インフラマネージャーを必要とする理由・マネジメントとメンテナンス